

将来像の設定についての考え方

1. 位置づけ

基本構想の計画期間を10年間とし、概ね2030年を展望した将来像を設定します。

2. 将来像設定にあたっての考え方

- ① 加茂市を取り巻く社会状況、課題を的確に捉えて検討します。
- ② 審議会での意見、アンケート・ワークショップなど市民から聴取した意見を参考にします。
- ③ 総合計画は、新たに計画を作る形で策定しますが、将来像はこれまでのものも参考にします。

3. 将来像の検討の方向性

アンケート、ワークショップ、審議会の意見を踏まえると、次のようなまちづくりの方向性が見いだされてきたと思われます。

将来像の方向性	
<p>【強み・特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の充実 ・豊かな自然環境 ・大学・高校が多い、教育のまち ・商店街 ・行事やイベントによる賑わい 	<p>【活かしたい・伸ばしたい・作りたい強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の充実、健康に暮らせるまち ・豊かな自然環境、きれいな街並み・公園 ・教育の充実 ・まちの賑わいづくり、活気あるまち、経済の活性 ・雇用や働く場所、産業振興 ・災害や犯罪に対して安全で安心できるまち ・子育てのしやすさ ・市民との協働、コミュニケーションや支え合い
新たに策定する将来像（キーワード）	
<p>安全、安心、安らぎ（福祉・健康、災害・防犯） 健やか（健康） 自然（加茂山や加茂川など） 教育（人づくり） みんなで創る・支える、誰もが、子どもから高齢者まで、包摂性（市民協働、意見の反映） 若い世代、次世代、引き継ぐ、つなぐ、つなげる、持続可能（歴史や伝統、未来への継承） 子ども（子育て） 未来、笑顔、希望、夢（夢や希望が持てるもの）</p>	

これまでの将来都市像

<p style="text-align: center;">長期構想（総合計画）</p> <p style="text-align: center;">1977年（昭和52年）～ 2000年（平成12年）</p>	<p style="text-align: center;">第二次総合計画</p> <p style="text-align: center;">1994年（平成6年）～ 2003年（平成15年）</p>
<p>【基本理念】</p> <p>豊かな伝統と自然環境のもと、加茂市民の生活力と創造力が地域社会づくりの活動を通じて、ますます発揮され、すべての市民にとって暮らしよい生活都市をめざし、このまちに住むことに夢と誇りをもてる“加茂市定住社会”の実現をはかる。</p> <p>このため、工業・地場産業（地元に基づいた産業）の振興を主軸とした活気ある産業都市の建設によって、長期的な経済基盤の確立と都市基盤の整備をすすめる。</p>	<p>【基本理念】</p> <p>豊かな伝統と恵まれた自然環境のもと、市民の日常生活が、安全で暮らしよい生活都市であり、若い市民が定着し活気あるまちづくりをすすめる。</p> <p>このため、主要幹線道路など都市基盤の整備と活気ある産業づくりによって経済基盤の安定・強化を図り、新しい雇用の機会を創り出す。また、人口の定住施策を推進し、まちの活力を高める。</p> <p>一方、潤いとゆとりのあるまち、個性と都市的魅力のある「学園・文化都市」をめざし、次代を担う人づくりとともに、まちの活性化を促進する。</p>
<p>【将来都市像】</p> <p>（1）都市的魅力が充実した、若い市民の定着する活気あるまち。</p> <p>（2）日常生活において健康で安全な社会環境をもつ、便利で暮らしよいまち。</p> <p>（3）郷土の伝統と自然環境において、加茂市の特性が生かされた個性あるふるさと。</p> <p>（4）工業、商業、農業のそれぞれの特性が生かされ、それぞれが有機的連けいをもった産業都市であり、特色ある工業、地場産業（地元に基づいた産業）の機能が充実した工業都市。</p>	<p>【将来都市像】</p> <p>将来都市像は、21世紀に向けて市民が期待し求めるところを基本として定める。</p> <p>市民の一人ひとりがこのまちを愛し、市民の英知を結集し、地域社会において共に歩む中で、将来都市像が輝きを増し、市民が希望と生きがいをもつことのできる加茂市となることを確信するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然に恵まれ潤いとゆとりのあるまち 2 各分野の産業が一体となって発展するまち 3 教育環境が充実し文化活動が盛んなまち 4 健康で温かい心のかよあうまち 5 安全で快適な暮らしよいまち